

# 論 說 報 告

第 26 卷 第 4 號 昭和 15 年 4 月

## 靜 岡 市 大 火 視 察 報 告

昭和 15 年 1 月 15 日の静岡市の大火災に際し本會は之れが御見舞を兼ね且つ災害調査の目的を以て本會理事和田重辰、會員春藤眞三、杉戸清並に佐藤慶次の 4 氏を派遣した。以下は各専門の立場より見た其の報告である。

土 木 學 會

### 靜 岡 大 火 と 其 の 復 興 計 畫

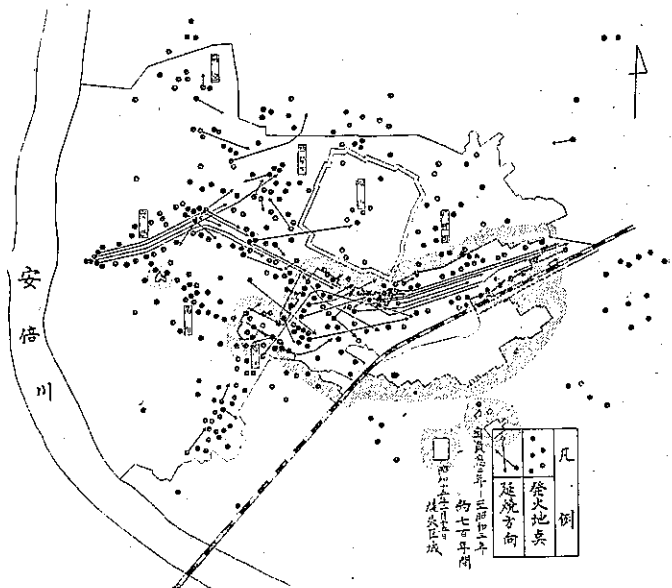
會 員 春 藤 眞 三\*

#### 1. 總 說

去る 1 月 15 日の正午過静岡市新富町 1 丁目地内の一民家に火元を發したる劫火は忽ち隣接せる三番町小學校々舎に燃え移り、折からの西風に煽られて飛散せる火の粉は現場より約 700 m を距てた風下の上大工町の一角に先づ飛火し、引き續き上石町 2 丁目、下石町 1 丁目、兩替町 2 丁目、鍛冶町外數箇所其次より次へと 1 時間半餘の間に飛火延焼し、火は風を呼び風又火を狂はせて燃え擴がり、遂に翌 16 日午前 8 時半に至るまで全市の約 6 分の 1 に當る區域を烏有に歸せしめた。幸ひ

にも電信電話局が類焼を免れたるため、通信機關は直ちに復舊したるも、交通大動脈たる國鐵は約 26 時間に互り杜絶せられ、市民の生活に須要も缺くことの出來ぬ上水道は其の常態に復するまで實に 1 週間を要したるが如き未曾有の大事を惹起した。然して是に依る被害の概況は次の如きものと推定されて居る。

圖-1. 静岡市中心部火災圖



1. 焼失面積	320 000 坪
2. 罹災戸數	5 275 戸
内	
全焼	5 229 "
半焼	46 "
3. 罹災人口	28 156 人
4. 焼失家屋 (建坪)	164 965 坪
5. 損害見積額	100 861 600 圓
6. 死傷者	
焼死者	1 名
病死者	2 名

負傷者 788 名

\* 内務省計畫局第一技術課長

## 2. 大火の原因

敘上の如き大火となつた原因に就ては種々の方面より考察することが出来る。地元縣市當局は勿論學界方面亦夫々人を派して調査研究したるが現地を視察して次の事項を見聞した。

### 1. 乾燥

舊臘 14 日以降降雨なく當日正午に於ける湿度は 23% であつた。又井戸水路等の水量は著しく減少せしため有效なる消防作業を妨げた。

### 2. 木造建物と其の構造

木造建物は旱天のため極度に乾燥して居つた。尙ほ瓦葺の如きものも土居塗を用ゐたるもの尠く、且つ建物の外部に土塗又はモルタル塗を使用せる構造稀にして殆んど全部が木造なりしたため飛火の引火並に延焼を容易ならしめた。

### 3. 小道路の不足

燒失區域は鐵道以南の一部を除き概ね人家稠密せる市街地である。特に静岡驛前より縣廳市役所に至る通稱御幸道路以西の部分は、呉服町通、七間町通等の繁華街を包含せる密集地域であつて、静岡市の心臓部をなすに拘らず、道路としては實現せる都市計畫街路の外他に見るべきものなく、幅員僅か 3~6 m に満たざる小道路が約 110 m 間隔に方格型に配置され居るに過ぎず、然かも殆んど空地を存することなく、人家建て込み飛火引火して火の手が上がり收拾付かざる程度に至るまで發見出來ざる始末にして消防作業の足場も亦極めて不便であつた。

### 4. 市民防火活動

當日は折悪しく藪入り日であつたため働き盛りの若者若くは男手尠く、家庭防火群の有力なる活動要素を缺いて居た。

### 5. 應援消防

附近町村よりは勿論遠く濱松邊よりも消防隊の應援ありたるも中には消火栓結合環の型式の異りたるため之を使用することを得ざりしものもあり又燒失地の道路水路の他の實狀を熟知せざりしたため十分なる活動をなし得ざりし向もあつた。

### 6. 風速

風速の最大は静岡測候所の觀測に依れば午後 1 時半で秒速 9.6 m にして正午より午後 10 時に至る間の平均風速は毎秒 5 m 程度であつたが、火災の中心地では風力之よりも遙かに強かつたと思はれる。

## 3. 復興計畫

今次の災厄に鑑み此の際速かに所謂防火的復興計畫を樹立實現するの要あるは言を俟たざる所であるが、静岡市當局に於ては鋭意研究調査の結果、大略次の如き計畫の實現を期して居る。

### 1. 街路

幹線と考へ得べき都市計畫街路を完成すると共に、之に配するに幅員 8~15 m の補助線街路を新設して整然たる街衢を形造る。尙交通上よりは勿論火災時に際して消防活動を十分ならしむるため、幅員 4~6 m の街路を新設又は増設する。

### 2. 防火道路

既往の火災並に風向を考慮して、幅員 30~40 m の防火道路を 3 路線新設して、これに喬木性常緑潤葉樹を植

圖-2. 静岡市復興計畫圖



とて連続せる森林状に育成せしめ、防火壁となすと共に別に自然水利を取り入れたる防火用水路を設置する。

3. 公園緑地及廣場

静岡驛の表裏に面積 8 500 m<sup>2</sup> 及び 570 m<sup>2</sup> の廣場を設け又小學校隣接地其他、適當の位置に面積 4 500~12 000 m<sup>2</sup> 程度の小公園 4 箇所を新設し防火道路同様常綠樹を植栽して、平時は保健衛生の見地より又有事の際に於ける市民の避難所たらしめる。

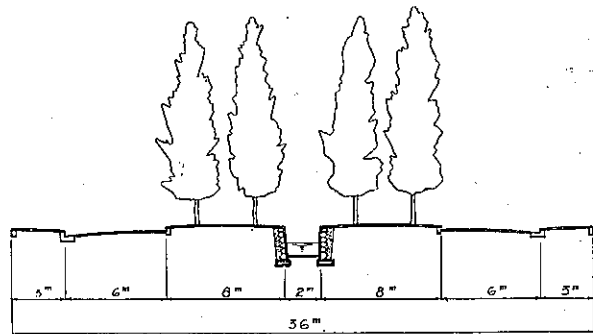
4. 防火貯水槽

消火栓の増設其他に依る上水道の整備と相俟ちて、公園廣場又は防火道路内に 10 箇所の地點を選定して、之に容量 100 m<sup>3</sup> の防火貯水槽を設置して防火上遺憾なきを期する。

5. 土地區劃整理

以上の諸施設は凡て都市計畫決定をなし、同時にこれを都市計畫事業として其の實現を期するものであつて、此れがため新たに民有地の收得を必要とするものは約 5 萬坪である。此の潰地は従前の民有地の約 19% 餘に該當し、普通の買収に依る方法にては相當困難を伴ふことが豫想せられるから、燒失區域約 33 萬坪に對し都市計畫法

圖-3. 防火道路 (幅員 36 m)



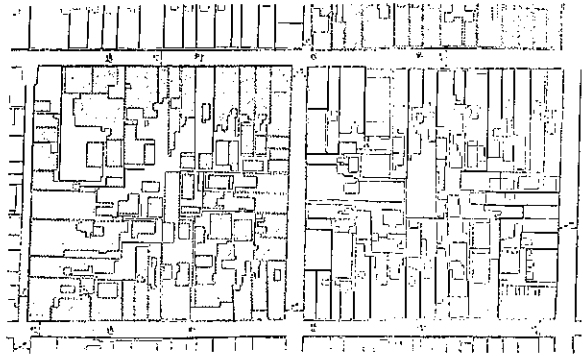
第 13 條に基き、静岡市長執行の土地區劃整理事業を併用して、其の圓滿且つ急速なる完成を期して居る。

#### 4. 後 記

劫火全く収まると共に、縣市當局は直ちに罹災民の救護と焼跡整理其の他の應急處置に乗り出した。そして縣下は勿論全国各地からの同情と應援の下に、日に夜を繼いで最善の努力を盡して居る。就中復興事業に就ては速早く其の基本計畫を樹て

ゝ、2 月上旬には都市計畫地方委員會に附議決定された。又 1 月下旬から掛つた區劃整理に對する實地測量は 2 月下旬之を完了して既に假換地設計に着手したと聞いて居る。吾人は官民一致のこの精進振りに滿腔の敬意を表すると共に、復興建設の日一日も速かならんことを祈るものである。

圖-4. 敷地割及空地画



## 静岡市の大火と上水道

會員 杉 戸 清\*

### 1. 静岡市水道の特色

静岡市の水道に就ては、他の都市と異なる 2 つの點を發見する事が出来る。その 1 つは、地下水が豊富でその水位が高い爲めに、水道の必要を痛感する事少く、従つてその布設が同程度の他の都市よりも遅れて、昭和 8 年 10 月に竣工したのであるが、一方同市の下水道第一期工事は、既に昭和 4 年 3 月に竣工したのであつた。即ち水道よりも下水の方が早く出来上つた事である。現在の静岡市域の一部は、昔安倍川の川敷であつたと推定され、その地下には安倍川の伏流水が相當に流れてゐる。試みに昭和 10 年 4 月 14 日より同 17 日に至る同川の流量測定の結果を見ると次の様である。

測定場所	曙橋	足久保橋	内牧橋	安西橋	安倍川橋	川口
流量 (m <sup>3</sup> /sec)	7.17	6.30	3.88	2.42	4.39	5.92

従つて水道の普及率も低く、尙同市が水道の建設に着手せる動機も、下水道の一部完成に依り在來の溝渠を埋立せし爲め一種の防火水道の如き意味を以てなされたのであつた。

特色の他の點は、總て自然流下式で、唧筒類は一切使用してゐない點である。伏流水を使用せる此の程度の都市の水道で全く自然流下に依つて給水しつゝあるのは、その例が尠いと言はねばならない。即ち同市は地形的に非常に恵まれてゐて、下水管の布設の如きも、その勾配は概ね地形のまゝに布設して適當なる勾配を得らるゝ如き土地である。

\* 内務技師 工學士 内務省土木局第二技術課